

## 第7回土浦市中心市街地活性化協議会議事録

- 開催日時 平成25年10月21日(月) 1時30分より3時45分まで
- 開催場所 土浦商工会議所 ホール
- 出席者数 委員12名 オブザーバー2名
- 出席者名
- ・中川喜久治(土浦商工会議所副会頭)
  - ・伊藤光二郎(土浦都市開発(株)常務取締役)
  - ・大澤 義明(筑波大学)
  - ・横山 和裕(土浦商工会議所副会頭)
  - ・説田 和彦(土浦商工会議所青年部会長)
  - ・五頭 英明(土浦市副市長)
  - ・小泉 裕司(土浦市副市長)
  - ・森作 久男(関東鉄道(株)自動車部営業課長 武藤委員代理)
  - ・勝田 達也(NPO法人まちづくり活性化土浦理事長)
  - ・山根 幸美(土浦市女性団体連絡協議会調査研究部会長)
  - ・茅根 務(土浦市金融団幹事行)
  - ・豊田 高久(土浦市金融団幹事行)
  - ・矢口 健一((一社)土浦青年会議所元理事長)
  - ・池田 正雄(つくば国際大学)
  - ・横田 清泰(内閣官房地域活性化統合事務局参事官補佐)
  - ・清水 伸(茨城県商工労働部中小企業課 助川オブザーバー代理)
- (土浦市)
- 塚本 盛夫(市長公室長)
  - 久保谷秀明(産業部長)
  - 東郷 和男(都市整備部長)
  - 飯村 甚(商工観光課長)
  - 船沢 一郎(都市計画課長)
  - 北島 康雄(商工観光課長補佐)
  - 露久保 浩(商工観光課主幹)
  - 登坂 裕明(商工観光課主幹)
  - 飯泉 貴史(まちづくり推進室室長)
  - 長坂 英治(まちづくり推進室主幹)
  - 中泉 梢(まちづくり推進室主事)
- (事務局：土浦商工会議所)
- 菅澤 秀男(専務理事)
  - 稲葉 豊実(中小企業相談所長)
  - 松井 修一(総務部長)
  - 加賀美吉彦(総務課長)
  - 石井 政男(中心市街地活性化協議会事務長)
  - 森内 靖雄(中心市街地活性化協議会係長)

## 1. 挨拶

(中川会長)

第7回土浦市中心市街地活性化協議会にご出席いただき誠に有り難うございます。

今年も、日本全体で様々な災害があり、つい最近も伊豆大島で大変な大雨の被害がありました。大島の住民の皆さんには、お見舞いを申し上げる次第です。

防災の視点と言うのは、これからの都市づくりに重要なことであると改めて考えさせられた災害でもありました。

前回の第6回会議におきましては、会長の私が欠席いたしましたこととお詫び申し上げます。

伊藤副会長に代理をお願いし、その間ベトナムに行っておりましたが、事務局から報告を受けたところ、皆さんのご協力の下、活発な意見をいただいたと伺っております。

私事ではございますが、茨城県日越友好協会40周年記念の代表でベトナムに行き、友好記念式典に出席して参りました。当初の予定から一週間日程が遅れ、前回の協議会と重なってしまった経緯でございます。

ベトナムの要人との会議が2つあり、建設省副大臣、運輸省大臣とのミーティングにおいて、ベトナムのまちづくりの状況を伺って参りましたが、日本の戦後10年の水準くらいという感覚を覚えました。都市は近代化していますが、奥に入ると戦後の日本の様な所が沢山あります。

又、都市部においても、先に建物ばかり造っているため、排水計画が出来ておらず、かえって難しい技術や施工になっている現状です。

ベトナムからすると、先ず飛行場や橋の建設に対して、日本の予算をいかに引き出すかということが大きなテーマだと思います。それに対して日本として、又茨城県として、応援出来る部分が沢山あると思いついて参りました。

このような点からも中心市街地の活性化において、「老朽化した施設の問題や人口減少社会に対しどうあるべきか。」「防災という視点からどのようなまちづくりが必要か。」ということも、これからのまちづくりの重要なテーマとなって来るのではないかと考えています。

本日のテーマは、空き店舗対策事業です。これも非常に難しい事業と認識していますので、市の考えを伺いながら、皆さんのご意見を合わせ、実りある会議にしたいと思います。

これまでも、様々な意見を頂いて参りましたが、意見書を取りまとめる大詰めの時期に来ています。長時間となると思いますが、皆さんのご協力を頂きながら進めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 会議概要

### 報告事項

(事務局)

会議に必要な、定足数を満たしている旨を確認

前回会議録の配布を以て前回会議報告とする旨を確認

### 協議

#### 1 空き店舗対策について

(土浦市商工観光課 飯村課長)

- ・これまでに実施した空き店舗対策事業
- ・現在実施している空き店舗対策事業
- ・新たに検討中の空き店舗対策事業
- ・空き店舗活用事例

(中川会長)

空き店舗の減少は数値目標にも設定されていますし、横田オブザーバーからも重要な指標であり、数値目標を考えることは重要であると伺っております。

個人的には空き店舗と併せて空き駐車場の議論も必要と考えますが、まだ具体的に論じる状況になってないと思います。

これらを含めて皆様のご質問、ご意見を伺いたいと思います。

(池田委員)

説明の中にありました、名店街の空き店舗活用事業土浦繁盛記で、平成24年から2月のひなまつり等、私と学生が関係して参りました。

それなりに人出はありましたが、広がり少なくその時だけになっているのと、宣伝不足なのか、インパクトに欠けた気がします。

やはり駐車場問題が大きくて、子連れのお母さんが来る場合に、何処に駐車すればいいのかという話が出てきます。

土浦の市民の方々は、ほとんどが車で生活しているので、面白い所があっても車でなければ子連れで行けないことが大きなネックになっている状況です。

いろいろなイベントに参加していますが、中心市街地に集める魅力づくりと、そこに車で来られる状況かどうかが重要になってくると思います。

(飯村課長)

以前、モール505の的場会長から、駐車場がないのが中心市街地の商店街にとって厳しいという話を伺いました。中心市街地が衰退して、郊外型の店舗が増えるのが車対策なのだろうと思っておりまして、これを一挙に解決するのは難しいと思っています。

ですが公共交通を使って来ていただくということと、今後高齢化が進む中で、車がなくてもまちなかで生活できるようにするというのが目標となって来ると思いますので、そこにむけて少しずつ取り組んで行くしかないと思っています。

(勝田委員)

説明の中にウェルネスステーション整備事業がありましたが、これに興味を持ちました。近くにはリンリンロードという素晴らしい施設もあり、サイクリングという観点から見てもいいですし、都内でも最近ランポートというランニングをする方々の施設が増えています。私も何回か行ったことがあります。マラソン大会はどの大会も抽選です。

先日、有明のジョグポートエリアの開設記念お台場ランニングに行きました。猪瀬都知事や芸能人等多くのランナーが走って参りました。

霞ヶ浦マラソンは全国で3番目の規模のマラソンですが、その時は大変な人が来ていますが、普段は環境が良いので水郷公園等を走っていると思います。

ランナーやサイクリングの人が、そこで着替えが出来たり、情報が得られたり、休憩が出来るような施設があれば、拠点になるので必然的にそこを通過して、リンリンロードや街中をランニングする回遊性が生まれると思います。

あれほどの人が年に1回は、霞ヶ浦周辺を走っていますから、その日だけでなく、他の季節の時も行ってみようと思える様な施設が出来れば良いと思います。

広い意味で健康が促進されることにもつながるので、これを推進していただきたいと感じました。

(山根委員)

何人か意見としてありましたが、イベントが日常的に広がりをもたせて影響していくことが弱いと感じています。

買い物するのは女性の影響が大きいです。この協議会委員は女性が一人ですので、もっと女性が入っていれば良いと思いました。

具体的なアイデアはありませんが、女性たちの活動をどのように繋げて行けるか考えています。

(中川会長)

空き店舗は、個人が所有している財産に対し支援して行くものですから、傍から出来る性質でもありません。イオンモールという大きなショッピングセンターが出来て、集客がどんどん吸収されるのに対して、駅前の商店街対策を考える際に、駅前の面積だけで考えれば、駐車場や施設を造ることもできますが、所有者の利益や個々の権利を保ちながら、受け皿をつくることは現実的ではないと思っています。

空き店舗を所有している人たちの団体や業界でもない限り、行政が良い案を出しても、響いて行かないという面があるのだろうと思います。

私は、今あるものが推移する必要があると考えていて、例を挙げれば、国際マラソン大会を主催する土浦として、3万人のエントリーに対する、サポーターや大会関係者を含めれば十万人規模の人出が見込めます。土浦市庁舎開庁記念で庁舎前をスタート地点にすれば、大変な人が駅前に集まり、起爆剤となって、まちづくりも推進すると思っております。

このような仕掛けの可能性について、お伺いしたいと思います。

(小泉委員)

霞ヶ浦マラソンですが、駅前の市役所をスタートすることで、まさにシティーマラソンのイメージがアップする感じがします。

今のスタートについても、すでに若干変更していますが、人数的にはもう警察指導においても限界の状況です。

これ以上の人数が集まって、現在のスタート地点で安全を保障するのは、難しいという話があるようです。現実的な部分としては、あの人数を駅前で処理するというのは、課題が多いのかなと思いますが、駅前にスタートの紙吹雪が降ってくれば、良いイメージとなると思っています。

一つ質問したいのですが、市役所が駅前に移転することで、いろいろなお店、飲食店とかが空き店舗に入っていただきたいと思っておりますが、現在市役所効果としてそういう動きがあるのかどうか、これからあるのかどうか、分かれば教えていただきたい。

(伊藤委員)

申し訳ありません。実態を把握しておりません。

逆に小泉副市長にお伺いいたしますけれど、市庁舎が移転した暁には、庁舎の中に社員食堂は作りますか。

(小泉委員)

それについては前回お話したように、作らない計画です。

(伊藤委員)

庁舎勤務の職員が約700人で、恐らく半分弱は手弁当なのかなと考えています。

残りの半分程度で300人ぐらいが外食ということになりますが、今の駅前空き店舗に飲食店が埋まったとしても、45分50分の間に食事を済ますとなると、現実問題は昼食難民がでると感じています。それでも駅前の庁舎効果というものを狙って若い方や、市外の方々が空き店舗に入って来るといった効果は期待できると思います。

その為には、市も出来る限りホームページ等で発信していただいて、不動産の仲介業者等々とタイアップしたら良いと思っています。

市内の不動産業の方々も、ウララビルにアプローチに来た時には、彼らの方がかなりの情報は持っています。空き店舗への入店が先日決まりましたが、そういう方は庁舎効果を前倒して

狙っています。

ウララから見ますと中央商店街や川口の方まで歩いて行くのは、少し距離があると思います。

従いまして、庁舎移転時の職員の方々の昼食をスムーズに提供すると考えれば、ペルチや不動産会社の情報と上手く連携して、飲食店を貼り付けるというのは、街の活性化に効果的と思っています。

昼食と夜の部があると思うのですが、夜の部は庁舎の方がかなり来るとなると、既存店舗の中でも値段を下げたりメニューを追加したりという、うねりがでて来ると期待は持っています。後はいかに推進するかです。

(横山委員)

本日は空き店舗対策というテーマですので、先ほど中川会長が言いましたが、空き店舗対策は財産権等をいかにクリアする等が課題だと思いますし、空き店舗対策と空き土地利用対策を一体的に考えて行かなければならないと思います。

先だって旭川に行ってきました、25～30年振りに旭川買物公園を歩きました。あそこは一般道路を歩行者専用にして、買い物公園として保存したという、当時画期的事業でしたが、25年たっても色褪せていないと感じました。

人口のピークが36万5千人で現在は、人口が34万9千人ですのでそれほど減ってはいませんが、北海道の中核都市で、土浦と違いますが周辺の空き店舗対策、駐車場対策、駐輪対策が良く出来ていたという印象があります。

駐輪対策においては、ペルチが実施しているようなものを無料で設置しています。

無料で駐輪が出来ることで、女性の買い物客を中心に利用が多かった印象です。

又、買い物公園を歩くと、センサーが歩行者に反応して、お店毎の営業時間や特売等の情報が自動的に流れるものも見て来ました。アイデアに感心すると共に、以前の旭川と比べて一歩も二歩も進化していると感じました。

専門的なことは分かりませんが、空き店舗を貸しやすくする為に、固定資産を減免する等の仕掛けや税制上の特典を付ける様なことが出来ないのかなと考えております。

どの地域でも実施していないので、出来ない理由があると思うので、その仕掛けを教えてください。

又、土浦には共通駐車券があり、私は当時非常に画期的な事だと思っていましたが、現在利用が少ない様な気がします。良い事業が何故、廃れたのか。次進化していくのはどうしたらいいのか教えて頂きたい。

本来は、車で来て歩いて回遊させることが理想ですが、ピンポイントに来て買い物だけしたい方がいます。

回遊してもらうために、駐車場は遠くても良いという考えもあると思いますが、駐車場が近いと言うことは私ども商売をしていて絶対条件だと思います。

先ほど霞ヶ浦マラソンのお話をしましたが、カレーフェスティバルも川口運動公園で開催しています。商工会議所の意見としては、あれを中心市街地でやってもらいたい。カレーフェスティバルは中心市街地を活性化するための事業であるのに、なぜ駅前が出来ないのか。出来ない理由は沢山あるようですが、私としては納得できていません。実施に向けて、課題を一つ一つクリアし行くことが必要だと思います。

以上、固定資産税と共通駐車券、カレーフェスティバルの駅前開催について教えてください。

(飯村課長)

申し訳ございませんが、固定資産税と共通駐車券のことは分かり兼ねますが、カレーフェスティバルに関しては、警察等と個別に協議しております。

警察からは、これ以上、まちなかの車を閉め出す様なイベントは止めて欲しいと言われてます。

又、中心市街地のエリアが広がって、川口運動公園も中心市街地のエリアになりますので、

中心市街地でやっていると言うことで、ご理解いただきたいと存じます。

(東郷部長)

固定資産税については、後ほど横田オブザーバーから補足していただければと思います。中心市街地活性化基本計画の認定をとって、商業施設を新たに新店舗に出店する場合に減免する方法は有ると思います。

ただ、現在市で計画しているのは、空き店舗に出店する人を対象とした施策を用意しておりますので、そちらで対応したいと考えております。

組合の共通駐車券については、何故低迷しているのかは定かではありませんが、駅前には市営駐車場と駐車場組合の駐車場がそれぞれあります。利用者からすると一つの駐車券でどちらも停められた方が便利ですので、今後市営駐車場を含めた共通駐車券の仕組みについては、検討したいと思っています。ただ、市営駐車場も回転率が低い状況で、まずは利用してもらう策を考える必要があると考えています。

(横田オブザーバー)

東郷部長からもお話がありましたが、空き店舗対策については国でも議論しており、やはり何らかのインセンティブを与えなければならないという話題になります。

例えば、商業施設等の空き店舗がシャッターを開けた場合に固定資産税を減免するという形については、現在財務省と制度運用について協議しており、将来的には国も支援は行って行きたいと考えております。

一方で、税金が安くなればシャッターが必ず開くという事でも無いと思います。佐久市の岩村田本町商店街の事例でもありましたが、商店街の理事長が商店街を一件ずつ回って開けてもらえるよう交渉したと伺っています。それでも開けていただけない店舗は、イベント等を絡めて刺激したという話も伺いました。

税金面での優遇措置という考え方もあるとは思いますが、商店街の事情は商店街の方が一番ご存じだと思いますので、キーパーソンになる方に動いていただく事が効果的であると考えております。

空き店舗対策が進まないパターンとして、二階が住居になっているため貸したくないという事例があります。これも同じ商店街の方の紹介により、貸すことができたという例もありますので、商店街や振興組合と連携を組みながら対策を進めることが効果的かと思っています。

(豊田委員)

4月に着任したばかりですので、以前との比較は出来ない部分はありますが、お客様との話の中で、市役所が駅前に来るという話は多いです。

特に飲食関係のお客様との相談の中で、市役所移転に合わせて、何らかのアクションを検討している方はいると思います。具体的な話は出来ませんが、融資の相談も2~3件ありますし、当然数百名が来庁する訳ですから、レスポンスは確実にあると思っていますし、集客や空き店舗への効果は充分有ると思います。

(茅根委員)

以前に横田オブザーバーと意見交換をさせていただいたときにも話題になりましたが、地主と入店者のどちらにどのような対策を打つかは、複雑な部分が多いと思います。金融機関として支援を考える際に、事案に対し融資でご相談を進めることと、経営革新の支援もありますので、これらを活用する方法もあります。このような方に対応できれば、資金負担の軽減のアドバイスや、サポートをすることが空き店舗対策の一助になると考えています。

鳥取市の事例で、商談会を通じて空き店舗対策を進めるテナントとのマッチング事業が特に気になりました。事業主体等、方法はいろいろあると思いますが、使い方を工夫すれば効果が出る気がします。

本日、ビッグサイトで食の商談会フードセレクションを実施していきまして、地方銀行 40 行、約 800 社の参加で開催され、午前中に出席してきました。農業法人や食品加工会社、スーパーマーケットやデパート等が全国から参加して商談が行われるのですが、これを駅前のビジネスマッチングとして実施出来ないものかと考えていました。

以前にもお話しましたが、土浦を見本に蔵の街として成功した川越市など、環境の似た地域を参考に、空き店舗対策に限らず、中活の様々な事業で取り入れて行けば良いと思っています。

(久保谷部長)

鳥取の事例は、中心市街地活性化協議会が主体となって実施している事例だったと思います。商工会議所等が中心となって、開業したい方の課題解決等を、間に入ってマッチングできるような組織づくりが必要だと思います。

土浦の賃料は他地域に比べて高いということを目にします。このあたりが課題としてあると思います。個人的には、空き店舗は賃料を安くしても店を開けていただきたいと思っています。これについては、商工会議所が中心となって働きかけが出来ないものか伺いたい。

(菅澤専務)

空き店舗対策については、不動産業者や地主さんと話し合いは持っています。その中には、固定資産税や保険料等を払えるくらいの家賃が入るなら、賃料を下げる等の協力はするという地主はいます。

今の状況を見ると、人が集まる仕組みがないため、市庁舎移転には期待をしています。飲食店を中心に出店は増えると思いますので、我々もそれに合わせて受皿づくりは必要と考えていますので、市と協力しながら整備して行きたいと思っています。

(久保谷部長)

支援制度としては、開業支援を考えています。開業した以上は持続性が重要で、市と商店街、商工会議所が中心となって対策を講じて行く必要があると感じています。

店舗を空けておいたら、安い家賃でも収入がある方が良くはないかと私も思います。財政的な不安がないから空けておくのではなく、街のことを考えてシャッターを開けるという機運にならないといけないと考えています。

(中川会長)

行政で様々な施策を打っているのに、伝わっていないことがあると思います。

空き店舗のオーナーを集めた、説明会を開催するような機会はないでしょうか

(五頭委員)

市の用意している支援制度がスタートすれば、説明をすることになると思っています。

それから、固定資産税の話がありましたが、建物があると土地の固定資産税が約六分の一になります。取り壊すと、6倍かかるということから、古い建物も壊さない現状にあります。店舗だけではなくて、住宅も同じことが言えます。

国の方では今後、建物を取り壊しても土地の固定資産税が上がらないような制度を検討していると聞いておりますが、未だ具体的には整っていないようです。

庁舎の職員の昼食の話がありましたが、これについて工夫する必要があると感じています。

弁当を持参する職員、あるいは地下のスーパーで買う職員がいて、外の飲食店で食事をしないことが考えられます。

外で食事する職員でも、休憩時間の中で済ませるには余裕がなく、離れた店へは行けないと思います。

営業する面から言えば、市の職員が食事する機会は昼食の1回ですので、それ以外の来店をいかに掴むか。店舗のキャパシティーが収益に直結しますので、昼食時でどれだけこなせるか

等の問題を抱えていると思います。

たとえば、休憩時間のシフト制等も検討しないと、飲食店が効率よく営業できないような気がしています。

(矢口委員)

空き店舗対策の中で、家賃補助の算定の根拠と、移転した店舗等も対象になり得るのかを伺いたい。

(飯村課長)

未だ検討の段階ですが、家賃の二分の一補助で上限は5万円を計画しています。

又、新規開業に限らず、移転に関しても対象となりますが、他市の事例を参考に中心市街地内の移転については対象としていないことが多いので、それに倣って設定したいと考えています。

(矢口委員)

どちらかと言うと飲食店やサービス業で空き店舗が活用を目指す印象を受けますが、経営者の視点に立てば、人がいないところに出店することはリスクが高いと思います。強制的に人を呼ぶにはオフィスの従業員だと思いますので、来客を必要としないオフィスは場所を選びませんので、中心市街地でのメリットを打ち出せばオフィスが動きやすくなると思います。このようなオフィスを誘致することにより、まちなかの昼間人口を増やして、更にアフターファイブまで考えれば、必然的に飲食店は集まってくると思います。

飲食店の誘致を進める前に、オフィス移転を推進する方が循環型になる気がします。

固定資産税の問題や、駐車場の問題等課題もありますが、それを払拭するメリットを打ち出せるかどうかは経営者の観点に沿うと思っています。

上限5万円の二分の一補助も計算式としては成り立ちますが、経営者の立場から本質的なメリットをさらに検討する必要があると思います。

2020年のオリンピックに向けて、つくば市では7億円を投じて総合公園の整備を実施して、練習場の誘致を図る計画があります。これらを観光・商業の活性化につなげたいというような循環型の仕組みを検討しています。

基本計画をすべて読みましたが、タイムリーな時事ネタが盛り込まれていない印象を受けました。これらを取り入れることで、中心市街地の人の動きも変わることが期待できますので、更なる検討を頂ければ良いと思います。

(大澤副委員長)

2つ申し上げます。まずはマーケットを如何にして捕まえるかが重要です。

この意味から、市庁舎移転による、約700人の職員がまちなかに来る機会をどう活かすかです。

前回も話しましたが、昼はもちろんですが、夜を楽しんでいただくには、車ではなく公共交通を利用して出勤することが大事です。関東鉄道にはルート・料金体系を議論していただき、他の市町村と比較してサービス水準が高いという評価を受けることは必須だと考えます。

もう一つは、マーケットを見るという観点から、つくば市では、2500戸の公務員宿舎が撤去されます。こういった方々を捕まえるチャンスだと思います。土浦は地価が安く、教育環境も優れていますので、耳をそばだててチャンスを逃さない姿勢が大事だと思います。

2つ目は、補助金を出す環境にあつて、空き店舗に対してペナルティを課す姿勢もあつていいと思っています。

実際にアメリカの事例でありまして、店を閉じていると税金を払わなければならない制度です。中心市街地はある意味で公共の空間です。その中で当事者意識をもって頂くためにも店を閉めるのであれば、覚悟を持っていただく。自分で出来なければ、他の方に代わって店を開け



るような制度があっても良いと思います。極端な例ではありますが、このような事例もある事を申し添えたいと思います。

## 2. 意見書について

(中川会長)

市の施策に対する意見を取りまとめる意味で、前回欠席の際に文書を提出させていただきました。又、今回案として意見書を皆さんに示しています。

これから意見を頂く上で共通の認識でいたいのは、中心市街地は日本中にありますが、土浦においては、霞ヶ浦や筑波山の観光資源を活かし、首都圏の大きな人口を意識して、交流人口を増やす施策が協議会でも議論されるべきであると思っています。

これに、人口減少社会や社会インフラの老朽化、エネルギー問題等からのコンパクトシティを重ねて、活発な議論をして行きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(森作氏)

前回会議で、駅東西の運用が話題に上がりました。土浦に通って10年程立ちますが、街に訪れる人が少ない印象を受けています。若い方の交流が特に少なく、女性をターゲットにした商品の開発や、土浦独自の商品があれば、これを核に交流人口が広がって行く気がします。

筑波山と霞ヶ浦の観光資源を活用して、点ではなく面で捉えられるような施策が必要であると思っています。

(山根委員)

意見書を読んできましたが、これまでの会議の意見をまとめてあるという思いでいます。

新庁舎整備についての提案の中で、会議で発言した「インフォメーションセンターの充実」の記載があったのはありがたいと思っています。

ウララに出店する店舗が募集されましたが、反応が良くないという新聞記事を読みました。

その後、市としてはどのように展開して行くのか伺いたい。

空き店舗対策の補助金の説明がありましたが、ウララ出店に関しても助成の対象になるのでしょうか。

(塚本公室長)

9月末から募集をかけておりましたが、1社も申し込みがなかったところです。

ただ、その前に問い合わせや打診がありましたので、この企業と個別に折衝をして、金額面を含めた交渉を行い、今年度中には決定して行きたいと考えています。

(山根委員)

霞ヶ浦と筑波山を活用したいという話があって、霞ヶ浦については意見書の中に記載されていますが、筑波山に関する事項が含まれていないので、記載すると良いと思います。

(菅澤専務)

エリアの問題がありますので、土浦駅表玄関の霞ヶ浦や筑波山と言う様な記載になりますが、よろしいでしょうか。

(山根委員)

基本計画の冒頭の文章は、「土浦市は東に霞ヶ浦、西に筑波山麓を臨む。」と改めると良いと思います

(横田オブザーバー)

筑波山はエリアの外ではありますが、逆に筑波山に来た観光客をいかに土浦に呼び込むかと

言うことは盛り込めますので、筑波山と霞ヶ浦を繋げた計画作りは出来ると思います。

(矢口委員)

先ほども言いましたが、計画の中に時事ネタが入っていません。東京からの立地を考えれば、7年後のオリンピックは行政の手法によって大いに活用できると思っています。

つくば市ではその練習場を誘致する計画があります。東京オリンピックの駒沢公園の役割を果たすものです。駒沢公園のその後は、地価が上がって商店街が出来て、活性化の起爆剤になった歴史があります。

土浦市も都心からの距離は、つくば市と同じですので、東京オリンピックに対してどのような対応をして行くのか、どのような効果を目指して行くのかを意見書に記載して、計画の検討の土台に載せることも必要だと思います。

(中川会長)

オリンピックはタイムリーな話題ですが、基本的には茨城・成田・羽田の3空港からの好アクセスを活かした、首都圏人口、及び海外からの来街者を呼び込む仕掛けづくりだと思っています。

観光面では、霞ヶ浦を交流人口を増やすための観光拠点とするため、噴水施設の整備も期待している部分もあります。

課題も多くありますが、皆さんの知恵を頂ながら具現化して行きたいと思っています。

(五頭委員)

霞ヶ浦の噴水に関しては、20年程前に検討した記憶があります。

当時は、スイスのレーマン湖に匹敵する100m噴水を造る具体的な検討をしました。

ただ、事業主体や経費の問題等の課題があり、噴水による航行する船への影響や、住宅地への影響等が挙げられ、頓挫した経緯があります。

日本一規模の噴水の想像がつきませんが、クリアすべき課題は多いと思います。

意見書がこのまま提出された際に、夢がある話ではありますが、具体性が無く、国との協議においても無理がある話ですので、どのように受けとめたらいいのか戸惑うところはあります。

(中川会長)

国や県が霞ヶ浦を浄化推進していることを、上手く活性化策に取り込みたいと思います。

高さに無理があるとすれば、横に長いスターマインの様な噴水を造る等、知恵を出して何とか実現できないかと思っています。

中心市街地の集客のインパクトが無いという事からも、取り組みが必要な気がします。

(横山委員)

ソウルオリンピックでは、市内のアスレチッククラブのプールをアフリカのナショナルチームと小谷実可子氏のシンクロのチームが練習場として使用したことで大変な賑わいになったことを思い出しました。

噴水の件に関しては、コスト面や運営面等、出来ない理由を考えれば確かにその通りですが、前回の横田オブザーバーの発言には、「観光をキーワードとした活性化に成功事例が多い。」「土浦は霞ヶ浦を活用する必要がある。」「人口を増やす施策には時間を要するし様々な課題がある。そのため観光面から交流人口を増やす事業が大事」と言っています。現在の計画には、温浴施設や展望台の設置、足湯の設置等がありますが、霞ヶ浦の活用としては弱いという指摘を受けています。

これに対し、噴水の設置は、課題はあるものの夢があって良い提案であると発言されています。

個人的には、市庁舎開庁のスケジュールに合わせて、噴水を設置するようなスピード感を持

って取り組むべき事業であると思っています。課題はありますが、霞ヶ浦の観光利用として代案が出てこない中では、有意義な提案であると思っています。

イニシャルコストやランニングコストが分からない中での提案ですが、これらを含めて実現が可能な事業であるのか横田オブザーバーにお伺いしたいと思います。

(横田オブザーバー)

前回会議でも噴水の話題がありましたので、国土交通省に確認いたしました。その中では、単なる噴水を造ることは難しいですが、水質浄化をキーワードにすると可能ではないかと思っています。観光という側面を考えた場合、日本一をキーワードにするなど、何か付加価値を付けないと難しいと思います。政府内でも検討されていますが、観光をキーワードとして外から人を呼び込める中心市街地活性化策には重点的に支援をする方向で進んでおります。

実際に設置となると国土交通省の河川局との調整となりますが、水質浄化がテーマとなっていれば通りやすいと思いますし、実際に河川局とも話を持ちましたが比較的前向きな反応ではありました。

国と市の費用の問題について、財務省と調整中の段階ではありますが、将来的には、例えば霞ヶ浦周辺を重点的な支援地域として、国の全面的な支援を受けられる可能性もありますので、事業化しておくことが得策だと思います。

直ちに事業化する事は難しいと思いますが、導入促進等の表現で留めておいて、特区化等の中心市街地活性化施策の見直しが進んだ時点で、具体的に動いて行くということも必要であると思います。

実現可能な活性化事業については、前向きに検討していただきたいと思います。

(中川会長)

日本全体で、観光立国を打ち出していますので、土浦も手を挙げる必要があります。費用的な面がありますが、世界の観光地整備を目指した動きで、国の方針に沿った形でできれば、予算も引き出せる可能性もあると思っています。

(勝田委員)

以前世界湖沼会議霞ヶ浦大会がありましたので、その中で霞ヶ浦宣言が示されて、水質の浄化は単独では難しいので、産業界、民間事業者等、市民など様々な方の参画・協働が無ければならないと出ていますので、同計画の水質浄化の中に市民産官学が一体となって取り組むことが記載されると良いと思います。世界湖沼会議は、次回が2014年イタリアで、その次2016年までは内定しているとのことですが、その次の2018年はまだ決まっておられません。不確定な話ですが、霞ヶ浦に誘致できるのではないかという動きがあります。数年後の動きを意識しながら、環境面からの観光もあるはずですので、具体的な案はありませんが、水質浄化について、霞ヶ浦宣言で示した事を織り込めると良いと思います。

(池田委員)

図書館について、人々が集って寛げることが重要ですので、カフェ等が設置できれば良いと思います。他地区の図書館では実際に併設されている事例もあります。

又、イベントが実施できるスペースを設ける事も重要な要素であると思います。

(中川会長)

武雄市の図書館のイメージが先行していますが、土浦に新設される図書館も、多くの集客が図れるような計画になるよう進められております。

池田委員のご意見は、図書館計画の中に盛り込まれていたと思います。

(大澤副会長)

観光の視点が重要でありますので、意見書にも強く記載される必要があると考えます。観光、商業を含んだ広域連携の部分や、霞ヶ浦で行われた世界湖沼会議での宣言も加筆する必要があると思います。

原稿量としては、この程度が適当で、今後意見を頂きながら如何に熟度を上げて行くかだと思えます。

(横田オブザーバー)

基本計画は、中活協からの意見を反映されることが重要ですので、意見書に記載されている事業については、極力反映した計画書作成をお願いします。

噴水事業等、記載されていない事業がありますので、事業化するよう検討を進めていただきたいと思えます。

土浦市においては、本日の議論と取りまとめられた意見書に基づき、最終的な計画策定をお願いいたします。次回12月16日の協議会での意見書を待ってからではスケジュール的に大変慌ただしいので、この意見書案の段階から反映されることが良いと思えます。

政府内でも、中心市街地活性化協議会を活用することが重要だと議論がされております。全国的には形式的な協議会活動が多い中、土浦では活発な議論がされていますので、理想的な意見書であると思えます。土浦市においては、このような点を考慮されて計画策定に取り組んでいただきたいと思えます。

(事務局)

次回第8回会議を、12月16日13時30分、商工会議所ホールにおいて開催する旨を確認し、閉会した。